

# 「理解する力」

～置かれた環境を理解する～

Ⅱ テモテ 2 : 7、マルコ 4 : 9～20

## 流行のお笑いから

最近流行っているテンポのよいお笑い芸人がいます。しっかりと意味を理解しようと聞いてみるものあまりよく理解できないものも多いと思います。しかしそのお笑いは小さい子どもたちも覚えて親しんでいると思います。しかし注意していかねばならないことが、この分からないことを分からないままにしておくことなのです。それは私たちにあって「楽」なことです。目の前に起こっていることも「理解できないけど楽しいからいいか」という思考になっていくのです。笑うことはとてもよいことです。それは健康にも良いことで医学的にもお勧めしている人もいます。それは体が元気になると細胞レベルで活性化していくことになるからです。では私たちはどのような内容について楽しんでいるのでしょうか。将来を待望する楽しみが笑みとなっているのでしょうか。それとも現実の問題から逃げてしまうために使っていないのでしょうか。私たちの中に考えることができない、理解しようとする傾向に危機感を感じています。「何だか分からないけれども面白い」ということに気がつけないまま聞いていたかと思えます。

## 理解する力～置かれた環境を理解する～

私たちの目の前に起こることをしっかりと理解しているのでしょうか。私たちは自分の受け入れたくないことは見なかったことにする…なにかしたことにする…関係ないかと決めつけてしまう…見過ごしてしまう…という行動をとっている事があります。そして私たちの生活の中で自分のことを指摘されたりした時、どのような行動に出ているでしょうか。私たちはどのような状況の中にあっても「なぜ」を考えていくことが必要です。問題が起こったとしてもそこでどのように向き合うかが重要なことです。私たちが間違った道を歩んでいるのであれば、そこから戻るチャンスを与えてください。では私たちがそれをチャンスと考えるのかチャンスと受け取れないのか大きな差になってしまいます。チャンスを大事にしない受け取り方は①相手の言い方が悪いと考える②そのやり方が気に入らないと考える③自分の思いに合わない④自分の判断とは違うと考える⑤自分自身に都合がある⑥自分自身に都合がある⑦自分自身に都合がある⑧自分自身に都合がある⑨自分自身に都合がある⑩自分自身に都合がある⑪自分自身に都合がある⑫自分自身に都合がある⑬自分自身に都合がある⑭自分自身に都合がある⑮自分自身に都合がある⑯自分自身に都合がある⑰自分自身に都合がある⑱自分自身に都合がある⑲自分自身に都合がある⑳自分自身に都合がある㉑自分自身に都合がある㉒自分自身に都合がある㉓自分自身に都合がある㉔自分自身に都合がある㉕自分自身に都合がある㉖自分自身に都合がある㉗自分自身に都合がある㉘自分自身に都合がある㉙自分自身に都合がある㉚自分自身に都合がある㉛自分自身に都合がある㉜自分自身に都合がある㉝自分自身に都合がある㉞自分自身に都合がある㉟自分自身に都合がある㊱自分自身に都合がある㊲自分自身に都合がある㊳自分自身に都合がある㊴自分自身に都合がある㊵自分自身に都合がある㊶自分自身に都合がある㊷自分自身に都合がある㊸自分自身に都合がある㊹自分自身に都合がある㊺自分自身に都合がある

## 人間関係において

それは人間関係においても同じです。一番近い存在と言われている夫婦であっても考え方、感じ方が違ってきます。そして相手を理解しようとせず、私たちは自分の考えていることが正しいと思ってしまうことが多くあります。ですからうまくいかないのです。話しをした時も短い時間で相手が同意だと勘違いしていることも多々あります。あなたも自分が標準の価値観を持っているという思いで人間関係を構築していくようになっていくのです。では私たちは何を標準とするべきでしょうか。自分の価値観でしょうか。聖書では知恵によってであると書いてあるのです。

## 聖書の知恵とは

ソロモンは神の知恵を箴言という書物にまとめました。(箴言 1 : 1～7) 私たちは賢いでしょうか。それとも愚かでしょうか。私たちの賢さは神の愚かさに及ばないと聖書に書いてあります。ですから自分は愚かだと認めて、神の知恵を求めていくことが大切なことです。ではソロモンはどのように神の知恵を得ることができたのでしょうか。それはソロモンが王になった時に、神と人との前に出入りするために神に求めたからでした。その知恵は誰のものでしょうか。私たちは知恵は神のものであると理解しています。ですから知恵は自分のために使うのではなく、神様の素晴らしさを周りに伝えていくために用いるべきなのです。では私たちが注意しないといけないのが知識なのです。知識は人を高ぶらせると聖書は警告しています。この知恵とは現実の中において「なぜ」と思うことに対して神様の目線から見てどのように理解したのかということなのです。そのなぜに対して「その理由が解かった」というのが知恵なのです。それを理解することが重要なことです。では私たちが問題が起こった時など、なぜ不安になってしまうのでしょうか。それは本当の意味で理解していないからです。このころ、問題があった時、神様に「なぜ？」を聞くということが語られています。それは神の知恵を求めることなのです。私たちは「分からないまま」を止めないといけないのです。分からないのであれば、理解できるまで探り求めていきましょう。分からないから止めてしまっただけでは、すべてがそこで終わってしまうのです。では知恵を得るためにはどのようにすればよいのでしょうか。まずは御言葉を読み、祈ることから始めていきましょう。聖書には様々な困難に立ち向かった人々の証しと立ち向かわず逃げてしまった例が書かれています。このことから私たちがどのようにしていくのか知恵を読み取ることができます。

## 雨にも負けずより

この有名な詩は誰もが聞いたことがあると思います。「雨ニモマケズ、風ニモマケズ…」この詩にはモデルとなった実在の人がいます。それが斎藤宗次郎さんといひます。彼は東北花巻市で初めてのクリスチャンとなりました。彼はクリスチャンになった日から親から勘当されました。また町を歩いていると「やそ」「ヤソ」とあざげられ、何度も石を投げられるほど、迫害の強い時代でした。しかし彼はその嵐のような中であっても信念を貫き、クリスチャンとして歩きました。そんな彼が東京へ引越すことになり、東京行き汽車に乗る際、駅にはたくさん見送りの人でいっぱいになったそうです。その中に宮沢賢二もいたそうです。そんな彼を見てこの詩を記したと言われています。このように私たちが御言葉によって正しい方向へ変わる決断をしましょう。彼は止める決断をしませんでした。元に戻る決断もしませんでした。

彼は正しいことをし続ける決断をしていました。私たちは何を見て、何を感じて、何を決断していくのでしょうか。

## 1 否定せず、多面的に考える

私たちはいろいろな角度で物事をみていく必要があるのです。小さな考えでは否定的に捕えてはいけません。「すべての聖徒とともに、その広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解する力を持つようになり、人知をはるかに越えたキリストの愛を知ることができましよう。(エペソ 3:18～19)」キリストの愛についても多面から見るように知るさされています。物事を一つの方向だけで捕えるような狭い理解しかないと、私たちに与えられている将来と希望が理解できなくなり、それはもったいないのです。私たちの可能性についても同様です。私たちに素晴らしい造られたにも関わらず、それを否定してしまっただけではもったいないのです。また、私たちの周りにも同様に素晴らしい人たちがいます。それは互いに助け合ってよいものを作り上げていくために必要です。時には周りの人と一緒に取り組んでいくことも多面的に考えることにつながっていきます。ですから私たちは自分だけを見て否定することを止めていきましょう。

## 2 解らないままにしない～探し求める！！～

私たちは楽しければ理由は解からないままで良いとしていることが多いです。TVでも意味が分からないまま流行っている言葉もあります。しかし、本当にそれでいいのでしょうか？このようにして私たちが大事なものを曖昧にして本質を探り求められなくなってしまうか？そして私たちが分からないままにしておき、求めることができなくなる理由に「忙しい」ということがあります。これが口癖のようになって探り求めることをしていない場合があります。分からないままにする癖がついたら習慣になっていくと恐ろしいことです。反対に「探す癖」をつけましたらと思います。そして探し求める＝自分で考えることではありません。私たちが自分の中から答えを見つけるのではなく、私たちが神様から答えを見つけるようにならないと真の答えになりません。今日から分からないままにしないようにしましょう。

## 3 死に対する備え～老後の備えより大事～

私たちは自分の想定を越えた問題というものが出てきます。それに対してどのように乗り越えようとするのでしょうか。それとも「なんで起きたのか」と思ってしまうのでしょうか。それをマイナスに捕え落ち込んでいくのか、それとも神さまに聞きながらプラスに転じる事ができるのでしょうか。私たちが後者でありたいのです。例えば私たちが忙しいと感じている中で起こった場合、その物事を感情的に判断し、否定的な行動をとってしまったらマイナスに終わることは目に見えています。私たちがどのように生きていくべきでしょうか。私たちが老後の備えは割としてしている人が多いと思います。では死に対する備えはできているでしょうか。私たちがキリストの歴史をつなぐものとして先に教会に集うものとなりましょう。ですから私たちがどのように生きていくのか大切なのです。私たちが死に対する備えを考えて行く時の助けとして下記の言葉を覚えていきたいと思ひます。私たちの後にどのような言葉、思いを残していくのでしょうか。そのために私たちが今置かれているところを理解する必要があります。また理解するために探り求めていく必要があります。神様に祈りの中で探っていくましよう。

## まとめ

これは死に対する備えを考えるための補助として使用していきましょう。

(ご自分の名)さんが昨日亡くなりました。( )歳でした。  
彼(彼女)の人格を一言で言うならば( )です。  
彼(彼女)の人生の一番の功績は( )です。  
彼(彼女)が一番大切にしていた人生の思い出は( )です。  
彼(彼女)の心残り( )です。  
彼(彼女)が一番、彼(彼女)らしく輝いていたのは( )の時でした。  
彼(彼女)が残したもので一番価値あるものは( )です。  
彼(彼女)が生きている私たちに残した大切なメッセージは( )です。  
彼(彼女)の人生を一言で表わすとすれば( )です。  
彼(彼女)は今、天国で神の懐に抱かれて永遠の安らぎの中にいます。アーメン

(要約者:平澤 一浩)